

保育園(所)の

地域連携
地域交流

本園の地域連携・地域交流

富士吉田市立第一保育園

【布の芸術祭への参加】

1. 目的と経緯

本園は市街地の中心にあり、園児は散歩を通して、下吉田駅、小室浅間神社、本町商店街、みづほ公園など様々な場所へ出かけ、地域の方々との交流を深めています。今年は織物の産地である富士吉田市の伝統産業と地域活性を目的として行われた「布の芸術祭」に年長児の作品が展示されました。子どもたちが歴史ある富士吉田市の織物産業に触れ、布や糸という素材にも興味を広げられることを目的に参加しました。

2. 内容

「自分の服をデザインしよう」

- ・毎年園行事で行われている、まゆ玉飾りの由来を伝える。身近な行事から布や織物に興味を持てるようにする。
- ・様々な色や模様 of 布に触れて作品のイメージを膨らませる。
- ・服の形の台紙に好きな布を見つけて切り貼りし、絵の具やクレヨンで模様を描く。



3. 成果と課題

- ・布の芸術祭に参加し、様々な表現された作品に触れることで、布がどのように作られているのか、身に付けている洋服がどんな素材からできているのか、感心を持つことができた。
- ・布を切ったり貼ったりすることで、遊びの中に新しい素材を取り入れるきっかけづくりになった。
- ・子どもたちに伝統産業について伝えるのは難しいと思ったが、身近な素材やまゆ玉の行事から触れていくことでイメージしやすくなり、作品作りに興味を持って取り組むことができた。富士吉田市の歴史に触れる機会を作ることができ、よかったと思う。

地域連携・地域交流は生活の中に ～元気ステーション『あるっさ』との交流～

1、目的と概要

元気ステーション『あるっさ』は、保育園から徒歩5分ほどの場所にある高齢者施設。数年前より、散歩中に手を振ったり、会話をすることで交流が始まり、今も続いている。

核家族化が進み、色々な世代の人との関わりが減ってきた現在、親や保育士からは得られない様々な知識や経験をして、高齢者との交流を楽しむ。

2、内容

【挨拶】



「こんにちは」
「おねがいします」
「ありがとうございました」をする。

【体操】



「アンパンマン体操」を見せたり、一緒に「ラジオ体操」をしたりして体を動かし、共に元気な体を作る。

【遊び】



シャボン玉を追いかけたり、ボールあそびをする中で声をかけあう。

3、成果と課題

おじいちゃん、おばあちゃんは、子どもたちがあそびに行くとても喜び、すぐにテラスへと出てきて満面の笑みで迎えてくれた。子ども達も自分たちのあそび場に到着したかのようにあそび始め、生活の一部のように交流していた。感染症予防に気を配りながらではあったが、子ども達に、優しく声をかけてもらい、温かい交流となった。今後も引き続き未満児との交流をしていくとともに、以上児の行事の中にも参加してもらえるような計画をして交流を広めていきたい。



秋を楽しむ会

1、目的と経緯

第四保育園は以前にも吉田西小学校との交流を行っていたが、コロナ禍で最近では実施できていなかった。今年度、久しぶりに実施できる事になり、吉田西小学校の一年生が、第四保育園に来園し、「秋を楽しむ会」を行った。



2、内容

小学生が会の進行をしてくれた。
始めの会の後4、5人ずつのグループに分かれて自己紹介をし、その後、小学生がプレゼントしてくれたどんぐりや松ぼっくりを使って作った手づくりおもちゃで遊んだ。初めはお互いに恥ずかしそうな様子が見られたが、遊び方や作り方を教えてもらうと、次第に楽しく関わっていた。



3、成果と課題

子どもたちは、久しぶりに会う卒園児との交流をととても喜んでいました。又、保育士も小学校で頑張っている卒園児の様子が見られ、嬉しく思いました。

一年生との交流は小学生になることへの期待感が増し、小学校生活がイメージできる貴重な経験になっている。今後も交流を大切にしていきたい。

こころほっこり おいもほり

1. 目的と経緯

本園はパワースポットとして注目されている新屋山神社に隣接する自然豊かな環境にあり、子どもたちは散歩コースで出会う地域の方々と挨拶を交わすなど、和やかな関わりを持ちながら過ごしています。毎年、食育の一環として園庭の一角で年長児が野菜作りを行っていますが、今年も近所の方のご厚意で、広い畑でじゃがいもの収穫を体験させてもらえることになりました。

2. 内容

- ・ 年中、年長児で畑まで歩いて行き、収穫を体験しました。
- ・ 両手で土を一生懸命掘りかえしてみたり、じゃがいもの大きさを友だちと見せ合ったりと、楽しく取り組みました。
- ・ 収穫したじゃがいもは、家に持ち帰ったり園でおやつに食べるなどして味わいました。



3. 成果と課題

畑が園から近いこともあり、年中児も体験させてもらえてよかったです。土に抵抗がある子も、自分で掘り当てたじゃがいもを見て笑顔を見せる姿が印象的でした。帰り道、じゃがいもでいっぱいになった袋を嬉しそうに持つ姿や、おじいちゃん、おばあちゃんとのやりとりがほほえましく感じられました。

地域の方から声を掛けていただけることに感謝し、このような体験を通して食への興味・関心へとつなげるとともに、心温まる交流を続けていきたいと思いました。



FCふじざくら山梨とサッカー交流

1. 目的と経緯

毎年5月の最終水曜日に「健康づくり」や「まちの活性化」を図るきっかけづくりとして、チャレンジデーが行われている。その一環として、FCふじざくら山梨の選手によるサッカー教室が開催され、子どもたちに身体を動かす楽しさ、ボールに触れるおもしろさを体験させてもらう。

2. 内容

- 年少、年中、年長で時間を分けて教室が行われた。
- 年少児は「身体を動かす楽しさ」をテーマにし、動物になりきって動き回ったり、ゴールに向かってシュートをしたりして、ボールに親しんだ。
- 年中児、年長児は「サッカーの楽しさ」をテーマに、ウォーミングアップから始まり、チームに分かれてゲームを中心に楽しんだ。



3. 成果と課題

- サッカーを初めて体験する子が多く、不安や心配な様子が見られた子もいたが、FCふじざくら山梨の選手達の子どもの心を引きつける声かけや、楽しい雰囲気のおかげで、どの子も夢中になって身体を動かし体験する事が出来た。
- 今後も、子どもたちの「体力向上・健康づくり」の為に、あそびの中で様々な経験が出来るよう、環境作りに努めていきたい。

本園の地域連携・地域交流

富士吉田市立第七保育園

～近隣駐在所との交流～

パトカーの来園

1. 目的と経緯

日頃から緊急車両などに興味があり、見かけるととても喜んでいる子どもたちの為に近くにある明見第二駐在所の警察官の方をお願いして、パトカーにて来園して頂いた。昨年度に続いて2回目の開催となった。

2. 内容

富士吉田市警察署にお願いし、近くに駐在所がある環境の中子どもたちがパトカーに興味を持てるように来園してパトカーを見せていただけないかお願いしたところ、快く引き受けてくれた。

2023年10月12日にパトカー来園。各学年ごとパトカーに乗せてもらったり、警察官と記念写真を撮り楽しい時間を過ごせた。



3. 成果と課題

普段から興味のあるパトカーを身近で見ることができ、乗車できたことで家庭に帰ってもお話しする子どももいたようで楽しい時間となったことを感じる事が出来た。

最初は少し怖がっていた子も保育士や警察官の優しい言葉掛けによってパトカーに乗ることが出来たり、一人ひとりの良い経験となった。来年以降もぜひ続けていきたい。

社会体験を通して

1. 目的と経緯

本園から徒歩10分のところに富士五湖消防本部が移転した。散歩での見学が可能となり、身近で緊急車両に触れ、消防隊との交流ができるようになった。また、体験学習ではタクシーに乗り、公立園に交流に出かけたり、地域の公園やスーパーでお買い物体験をしたりと日常生活の中で様々な人と交流を持ち、子どもたちの活動の幅を広げている。

2. 内容

消防署…日常の訓練や緊急車両の整備の様子、車両内の見学を行った。また、子どもたちの疑問や質問にも答えていただいた。



公立園との交流…園庭を開放していただき、遊具遊び・周辺散歩を行った。
この日は気温が高く、スプリンクラーでの水浴びも楽しんだ。



3. 成果と課題

多くの苦手さがあり、困り感を感じやすい子どもたちにとって、体験学習は必ずしも楽しいことばかりではないかも知れない。しかし、その場で過ごす事で少しずつ環境に順応していけるようになり、周囲の様子を見て興味・関心をもてるようになるなどの変化を見ると、この経験は無駄ではないと感じる。体験の中で社会のルールを知らせ、学習する機会をもつことで困りごとを一つでも減らせるきっかけになり、子どもたちの喜びや楽しみが変わっていかればいいと願う。

本園の地域連携・地域交流

幼保連携型認定こども園 富士保育園

テーマ 「災害時の地域消防団との連携」

1・目的と経緯

児童、職員への防災訓練を目的とし、地元消防団の協力のもと毎年実施している。令和4年度は5月20日、令和5年度は5月8日に実施し、消防団のほか自主防災会、自治会役員も参加して行われている。

2・内容

地元消防団（富士吉田市消防団第21分団）との合同消火訓練。

地元消防団長と園長の防災についての懇談において以下の課題が浮かび上がった。

- ①富士保育園は墓地および西念寺境内に囲まれた立地にあることから消火栓からの距離が長く、実際に火災発生時を想定すると水利の確保が課題となる。
- ②市内には用水路が流れており、そのうちの一つは西念寺の境内を流れている。それを利用し、自然水利での消火活動の体験が現役の消防団員には乏しいという現状がある。

上記2点の課題に基づき地元消防団と協議の結果実際に園舎の傍を流れる水路の水を自然水利として確保したうえで消火訓練を行うこととした。地元自治会、自主防災会、市議員なども駆けつけていただき地域を挙げての訓練となった。



3・成果と課題

【園児への成果】 実際に消防ポンプ車からの放水を体験することで火災予防への関心が高まったうえに、職業消防として地元には身近な消防団が存在し地域の防災に役立っていることを知る。

【職員への成果】 園舎の立地の特性を再確認するとともに、自然水利からの放水能力を実感できた。また、毎月の避難訓練に加えたことで地域と連携した防災活動の継続した取り組みの必要性を知った。

【課題】 見学学習のみになっている現状から今後は園児たちが主体的に自衛消防活動へ参加するなど活動を広げていきたい。



保小の連携とまちづくり交流・防災啓発活動
～防火パレード・七里まつり～

☆ (年長・年中児実施)

協力団体：宝小学校、リズム教室講師、宝地域協働のまちづくり推進会、都留市消防署、都留市消防団宝分団、宝駐在所、交通安全協会宝支部

1. 目的と経緯

- ・保小連携事業として様々な体験を行うことでスムーズな就学を支援する。また、地域において、防火意識の啓発活動を行うなど、安心安全な地域社会をつくる一員としての育成を目指す。
- ・防火パレードと地域のまちづくりイベントのコラボ企画として4年ぶりに実施。事業の成果を地域の方へ発表し、小学生及び地域の人々との交流深めるとともに、郷土愛を育む取組として行っている。



2. 内容

- ・保小連携事業として、小学校より派遣された地域の講師によるリズム教室等を実施している。スムーズな就学に向けて、様々な活動を体験し、地域のまちづくりイベントである「七里まつり」にてハンドベルや造形作品などを発表した。
- ・消防署員・地域の消防団員の協力を得て、「火を消して 不安を消して つなぐ未来」と声を合わせて火災予防を呼びかけながら防火パレードを行い、水消火器による消火訓練を実施した。また「七里まつり」会場においても小学生や地域住民へ向けて防火意識の向上を図る活動を行った。

3. 成果と課題

- ・小学校入学前に、地域の講師を招いて、多様な取り組みを体験することで、基礎的な技能の習得につながることができた。
- ・地域のイベントを通して、園児の活動を知ってもらい、交流を深めることができた。
- ・園児が啓発活動を行うことで、地域における防火意識の向上に貢献することができた。
- ・保育所においてコロナ禍により規模を縮小して行っていた事業も、より多くの地域の人々が参加できるよう検討していく必要がある。



東桂保育園の地域連携・交流

東桂保育園

自然の中で大学生と子ども達との交流

1. 目的と経緯

平成24年から都留文科大学教養学部地域社会学科の環境教育実習を『森のようちえん指導者養成講座』として高田先生の指導のもと参加しました。今年度からは秦先生に引き継がれ学生と子ども達と一緒に楽しく活動を続けています。都留市は自然に恵まれていますが、子ども達の遊びが変化して自然の中で遊ぶ経験が少なくなっていました。特に幼児期・児童期においては、自然との触れ合いの体験を多く持つことは子どもの感受性を刺激し、様々な不思議や発見の中から好奇心を育て、創造力の育成に繋がってゆく良い経験です。自然の中のびのびと心も体も大きく育ててほしいと願っています。



2. 内容

大学の後期の授業にあわせ、年に10回程度、大学生と年長児が鹿留こどもふれあいの森や楽山とソローの小屋を中心に遊びを展開しています。子ども自ら探索や斜面滑り、木登り、雪遊び、ソローの小屋でのまき割りや薪ストーブやたき火ブースで火を見る等好きな遊びを見つけ大学生との触れ合いを楽しみながら一緒に自然体験活動をしています。



3. 成果と課題

自然の中で様々な発見や、挑戦したりする経験は子ども達の日々の生活の中にもやってみようとする探求心が芽生えてきています。大学生とのふれあいの経験は社会性やコミュニケーション能力も育てています。大学生も回数が増えるごとに子どもの特性の理解が深まり、より仲良く交流が持っています。森の中での遊びはリスクがあるので、安全教育や対策に配慮していくことを課題として自然体験活動を続けていきたいと思っています。



本園の地域連携・地域交流

～さつまいもほりを通して～

三吉保育園

1. 目的と経緯

『新型コロナウイルス感染症』の感染拡大防止のため、例年行われている行事の多くが中止されました。特に「三密」を避けるための、学校及び地域の諸団体や他の保育園との連携においての催しのすべてが中止となる中、毎年行われている「芋ほり」は保育園近くの畑で耕作している方からお誘いがあり、現場で収穫体験をすることによって、『食』への関心が深まるので行わせてもらう事にいたしました。

2. 内容

年長児と年中児が、手袋と長靴を用意して、保育園近くの畑まで歩いて行き、耕作者の説明を聞いて作業に取り掛かりました。ことのほか豊作のため、実が大きくたくさんついているため、つる（茎）を引っ張っても抜けないので、芋の周りの土を取り除きながら時間をかけて収穫することができました。かなりの量なので園長のトラックで保育園へ運び、収穫した芋の一部は家に持って帰り、ほかの大部分は給食で使っております。また、後日には園庭でたくさんの落ち葉を集めて「焼き芋」をして食べました。

3. 成果と課題

土から掘り出した「さつまいも」の色と大きさに、ほとんどの子が感激し、歓声を上げて喜んでおりました。自分自身で収穫したお芋を家庭で調理して食べることにより、食物や食事への興味が深まることと思います。

青空も下で一生懸命作業した経験は、ほかの保育では味わえない貴重な経験であり今後も続けていきたいと思っております。



地域との触れあい

子ども主体で企画した「夕涼み会」

1. 目的と経緯

- 当園の保護者や園児だけではなく、地域の方々の参加を促し、コロナ禍で途絶えていた人と人との交流を深める。
- 職員がプログラム内容を決めるのではなく、子どもたちが主体となって、子どもたちの話し合いの中で企画をすることで、主体的で対話的な深い学びを体験的に実現していく。



2. 内容

- 地域の小学校や市の施設にチラシを配布し、小中学生の子育て世帯の参加を促す。
- 子どもたちが自分たちでデザインし、製作したおみこしを担ぎ、浄泉寺境内を練り歩いた。その後、子どもたちが選んだ楽曲による全員参加の盆踊りを通して人々との交流を深めた。
- 子どもたちが企画、準備をした、お菓子のすくい取り、キックボウリングのゲームブース、手作りのガチャガチャくじ、かき氷やおにぎりの軽食などのブースを出店し、最後に花火をして、企画者、参加者が共に楽しめるイベントとなった。

3. 成果と課題

- 子どもたちが企画から実施までを主体的に取り組むことで「やりたい」を実現する自信になった。
- 参加者が予想よりも多く来場したため、各ブースで長蛇の列が出来てしまった。
- 食べ物が少なかったため、来年以降は地域のお店などに声をかけ、連携を強化したい。



高齢者との交流を日常に…

1. 目的と経緯

私たちのくらしは、多様な人々との関わりの中で成り立っている。しかし、新型コロナウイルスの影響で、ここ数年はこの関わりが大きく制限された。保育園も例外ではなく、本来こどもたちにとって大切な「人との関わり」が断たれた。多くの人に触れることで、多様な在り方を知ることができる。幼児期に多様なモデルに出会えることは、子どもたちの育ちにはとても大切なことであると感じている。新型コロナウイルスの制限が緩んだことをきっかけに、園と併設しているデイサービスとの交流を活発に行うことにした。今までは、形式的に行っていたデイサービスとの交流を日常化することで相互に良い影響を期待した。

2. 内容

- ・毎日ラジオ体操の実施
- ・合同誕生会
- ・季節行事の共同開催
- ・合同避難訓練



毎日のラジオ体操



園児の送迎



夏祭り



運動会



節分の豆まき

3. 成果と課題

デイサービスとの交流を通して、こどもに大きな変化がみることができた。それは、日常の中でふとでる言動だ。手をつなぎながら園庭に送迎するとき高齢者のペースに合わせて歩く姿。車いすを止めればブレーキをさっとする姿。「段差あるから気を付けてね。」「これ、おばあちゃんたちに見せに行こう！」など。こどもが体験を通して自ら考え、相手を思いやり、他者を意識する。そんな姿はこれから生きていくうえで人と人との関わる重要な部分が育っているのではないかと思う。まだまだ実践を初めて1年目。今後さらにこの活動が日常化し、さらには地域も巻き込み、地域全体でこどもが育つ環境ができていたら…と思っている。

— 年長児と小学生との交流会 —

1. 目的と経緯

目的…就学する学校の生徒との交流を通し、入学に際しての不安を和らげ、小学校就学への期待を膨らませる。

経緯…コロナ禍前は例年定期的に行われていた行事であったが、コロナ禍で中止となり、しばらく行われていなかった。コロナも2類から5類へと移行し、流行も落ち着いてきていたことから、小学校側から招待を受け、当園からは年長児8名と職員2名で参加した。

2. 内容

開催日時…令和5年11月30日金曜日 10時～

開催場所…禾生第二小学校

活動内容…禾生第二小学校から招待され、1年生が主体となって活動発表や輪投げ、魚釣り、鬼ごっこなどを行い、交流を深めた。

3. 成果と課題

・去年まで園で一緒に遊んでいた卒園児が小学校で頑張っている姿を見て触発されたのか、園に戻ってから以前よりも言動や行動の面で成長した姿が見られるようになった。

・後日、子ども達に交流会に参加してどうだったか聞いたところ、みんな一様に「早く小学校に行きたい」と言い、小学校への不安が和らぎ、就学へ前向きになっていた。

・課題として、緊張もあったとは思いますが、挨拶やお礼などの基本的なことが自発的にできていなかった。日々の生活の中で、挨拶をすることやお礼を言うことの大切さを伝えていきたい。



「まちづくり文化祭・東桂」

社会福祉法人 境保育園

1、目的と経緯

- ・地域住民が多様な文化に触れあうことにより、地域の連帯感を培い、誇れる郷土を目指して、豊かな活気ある協働のまちづくりを推進しましょうという文化祭への参加を第1回目より行ってきた。

2、内 容

- ・発表部門には、園を代表して年長児が「空手演武」「歌 せかいがひとつになるまで」を発表した。
- ・展示部門には、3歳児「秋の製作」4歳児「いろいろな虫」5歳児「親子で陶芸」を展示した。

3、成果と課題

- ・コロナ禍で久しぶりの開催であった。大勢の人を前に緊張した様子ではあったが堂々と自信をもって発表出来ていた。
- ・展示は、文化祭のために製作するのではなく、園外保育で拾ってきたものを利用したり、保育参観や毎日の保育で興味を持ったりしたものを製作し飾った。
- ・展示や発表となるとどうしても見栄えを考えてしまい、子どもたちにやらせてしまう事が多くなるが、毎日の生活の中から子どもたちの興味あるものに私たち保育者が気づき、主体的に活動できるよう関わっていくことの大切さを感じている。
- ・発表当日は、年長児とはいえ、いつもと違う状況に落ちつきがなくなっている子どもたちを集めて舞台に連れていき、また保護者に引き渡すまで、けがや事故のない様にしなければならない。天気が悪くても落ち着いて集合、解散できる場所があれば良いと感じている。



本園の地域連携・地域交流

長生保育園

1. 目的

- ・地域交流は、この地域で長く親しまれてきた習慣、ふるまいを身に付けた年長の方々に園児が接することにより、自然な形で地域の文化を次の世代に引き継ぐ場となり、機会となることを目的としています。

2. 内容

① お団子作り

年長児が、都留市愛育会の皆様に粉をこねていただき、自分たちで丸め、給食室で蒸し、団子バラの木に飾りました。行事の由来などもお話していただき、楽しく有意義な時間を過ごしました。

② ろうそく見学

子どもたちが「ろうそくのおじさん」と親しむ、羽根子地区の藤本さんのお宅に年長児がご招待いただき、手作りのろうそくや絵を見学させていただいています。ろうそくの明かりが灯った幻想的なお部屋で、素敵な時間を過ごさせていただく貴重な機会。平成12年から毎年、年長児をご招待いただいています。



お団子づくりの様子



ろうそく見学の様子



3. 成果と課題

- ・愛育会の皆さまが教えてくださる様子をじっと見つめ、時には質問しながら、説明に真剣に耳を傾ける園児達。地域で長く親しまれてきた文化を地域の方々のご協力により次の世代に引き継ぐことができることをとてもありがたく思いました。
- ・地域の方を通じて触れる芸術の世界。園生活ではできない経験をさせていただいています。心が動く実体験を積み重ねられることを大変ありがたく感じています。
- ・当園の地域交流は、ご協力いただくことの方が多い現状ですが、認定こども園として、地域に貢献できるよう努力していきたいと考えております。
- ・新型コロナが流行し始めて以降、それまで大事にしてきた保育の中で決して譲れないのはどの部分なのか、安全に行うにはどうすれば良いのか、中止せざるを得ない活動の代わりに何を行うのか等、自分たちの保育を見つめなおすことを繰り返してきた分、復活させる活動についても、その活動を行う意義がより明確になったと感じています。

親子交流を行った活動・特色ある活動

認定こども園

東陽保育園

《親子リズムフィットネス教室・親子自然体験を通して》

1 目的と経緯

地域をとりまく環境は時代とともに変化しています。令和2年3月頃から新型コロナウイルスが発生し、園をとりまく環境も変わり、子どもたちにとって大切な交流の場を失いつつありました。現在は新型コロナウイルス感染症の減少に伴い、5類感染症に位置づけられ、社会が少しずつ明るくなってきました。

緩和された今、子どもたちにとって大切な交流の場をつくり、「みんな笑顔」を目的として園行事に取り組んでいます。



2 内容

「親子リズムフィットネス教室」では、保育参観（参加）の行事が新型コロナウイルス感染症の為、昨年まではできませんでしたが、今年度は親子リズムフィットネス教室を行いました。年間通して行っているリズムフィットネス教室を親子で体験し、音楽に合わせて体を動かし、手を繋いでふれ合い、ダンスを楽しみました。会場がとびきりの笑顔で包まれました。

「宝の山、親子自然体験」では、大自然の中、ノコギリで木を切り、木の実を見つけたりして木工工作を楽しみました。まきを切って火をおこし、たき火でやきいもを焼いたり、お湯を沸かしたり、初めての自然体験に目をキラキラ輝かせていました。



3 成果と課題

親子リズムフィットネス教室を保育参観（参加）として行い、親子の素敵な笑顔が見られました。普段お仕事で忙しい中、その時間子どもと向き合い、楽しみリフレッシュしていました。保育士もそんな親子の姿を見ていると、ほのぼのとして温くなりました。

大自然の中で、自然体験を行い、普段見られない子どもの姿を真正面から受け止めて、子育ての視野が広がり見直す機会になり、子どもの興味、自発性に驚かされ失敗体験から成功体験へ導いていきました。親子で協同製作を行い、出来た時の喜びを味わい、親子の絆、笑顔がとても素敵でした。

交流の場を提供することで、親子のふれ合い、子ども同士、親同士のふれ合い、保育士とのふれ合いを楽しみ、たくさんの笑顔、たくさんの元気をもらいました。交流の場の大切さを取り戻し、行事が復活し、保育活動が一步前進したように思います。

今後もみんなでふれ合う場を大切に、「みんな笑顔」で楽しめる活動を心がけていくよう努めたいと考えます。

地域との繋がり

安心安全な環境を

道志村保育所

1. 目的と経緯

道志村保育所は村内ただ一つの保育所として、年間を通じて地域住民、団体、小中学校と地域連携の活動を実施しています。保育所だけではできない体験、地域住民との交流、異年齢との交流をしています。

2. 内容

7月7日に小中学校のALTの先生を招待して七夕会を開催しました。地域の方から笹を提供してもらい、子ども達が願い事を書いた短冊を吊るしました。



10月には保育所に入っていない未就学児の交流の場である「つぼみっこくらぶ」と一緒に地域の方からサツマイモ掘りの体験をさせていただきました。



9月1日の引き渡し訓練においては都留市消防署道志出張所の職員の方からは子ども達に消火器の使い方を教えてもらいました。



12月は小中学校の児童と生徒に来てもらい、小学生には小学校の様子を教えしてもらい、中学生には紙芝居、折り紙などを教えてもらいながら一緒に遊びました。



3. 成果と課題

- ・地域住民と交流することで子供達が様々な事を体験できた。
- ・世代間交流を実施することで子どもとお年寄りに相乗効果が得られた。



心と心をつなぐ ～高齢者配食サービスに季節の作品を添えて～

【目的と経緯】

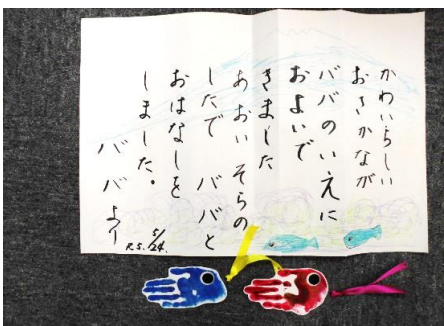
西桂町社会福祉協議会の事業の一つに高齢者配食サービスがあります。

昼食時に社協の職員がお弁当を届けるのですが、その時に「園児が作った作品と一緒に届けたい」という提案をいただき、年長児が季節の作品を作り、お弁当に添えて一緒に届けています。

【内容】

年長児が毎月季節の作品、こいのぼりやりんご、サンタクロースなどを作り、社会福祉協議会へ届けています。

直接、高齢者の方に届けることはできませんが、「おじいさん、おばあさんのために作っている」「作品が届くと、おじいさんが喜んでくれる」という子どもたちの思いを大切にしながら、顔の見えない高齢者との交流事業を行っています。



【成果と課題】

配食サービスを受けた高齢者の方からお礼の手紙が届きます。毎月、お礼の手紙を下さる「ババ様」がいて、子どもたちも「ババ様からの手紙」を心待ちにしています。顔を見ることはないのですが、園児の作品と手紙という形でのやり取りのなか、『心と心をつなぐ』そんな交流事業になっていると感じています。

今後も継続をしていき、子どもたちの心を届けたいと考えています。



野球未来プロジェクト～野球教室（ＢＴボール）～

（忍野少年野球チームとの連携）

1. 目的と経緯

ここ数年、子どもたちの野球競技人口の低下、ソフトボール投げの結果による子どもたちの運動能力の低下が危惧されている。そのため、「子どもの未来」と「野球の未来」に貢献するために、山梨県野球連盟富士吉田支部より令和元年にＢＴボールセットが寄贈される。

それ以来、野球振興の取り組みとして野球教室（ＢＴボール）を開催し、今年度で５回目を数えている。近年は地域のスポーツ少年団の方の協力を得ながら、楽しく野球に親んでもらうことを目的とし、幼少期の子どもたちにスポーツを始めるきっかけを与えたり、子どもの心身の健康増進の機会となっている。

2. 内容

保育所に忍野少年野球団の保護者の方が５名来所し、年長児が野球（ＢＴボール）を体験する。

園児は４チームに分かれ、試合形式で、打つ、捕る、投げるなどを体験し、簡単なルールを覚える。また、地域の方と触れ合いながら、一緒にプレーする仲間を応援する気持ちや協力して行う事など、野球の楽しさ・面白さを知る。



3. 成果と課題

子どもたちはドキドキ・わくわくしながら、置かれたボールを力いっぱい打ってベースまで走ったり、守備では全力でボールを追いかけたりと、簡単なルールの中で野球の楽しさに触れていく事ができた。地域のスポーツ少年団の方々も子どもたちの笑顔に魅了され、お互いに楽しい時間を過ごすことができた。また、野球教室終了後も友だちと仲良くＢＴボールをして遊ぶ姿が見られた。卒園児の中にはスポーツ少年団に所属し、野球に関わっているという話も聞いた。今後も地域の方との交流を大切にしたり、ＢＴボールに興味を持った子どもたちと遊び、体を動かす楽しさを味わっていきたいと考えている。

医療的ケア児の安心安全な受入れ

～地域医療機関・支援学校・小学校・保健師等関係機関との連携～

1. 目的と経緯

- ・令和3年9月18日に施行された「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」に伴い令和4年6月20日より保護者の強い要望により、医療的ケア児（2歳児・男児）の受入れを開始する。病名：先天性中核性低喚起症候群（CCHS）、気管軟化症（気管切開、呼吸器装着）

2. 内容

- ・疾患のため同年代や異年齢児との関りなど集団生活の経験がない児童に同じ地域の子どもたちと一緒に様々な体験（遊び、生活、園行事等）をさせたいという両親の願いから、また24時間365日、常に難病の子どもを育児する母親に対し育児支援、母親自身の休息时间（リフレッシュ）の確保、職場復帰など等、福祉の面から家族支援を目的とし保育所での受入れを開始する。
- ・受入れにあたり、事前に県内に同じ疾患の児童がいないため、県外の受入れ園とのオンライン会議、受入れ実施園へ訪問見学。富士吉田市立病院、内科主治医より疾患についての説明を含む、関係者会議の実施。管轄消防署員による救命救急処置訓練、通報訓練（講習会）の実施。両親、保育所、福祉課担当者、保健師、訪問看護師等関係者会議による情報交換、看護（保育）計画検討作成など、本所（忍野村）初事業であるため綿密な計画と連携の実施。
- ・受入れ後は、地域支援学校より訪問指導の実施、忍野村アシスト会議や山梨県医療的ケア児支援センターとの連携、さまざま研修会参加（オンライン含む）により知識習得と意識統一、児童の病院受診時（富士吉田市立病院内科、耳鼻科、眼科、富士・東部小児リハビリテーション診療所等）看護師、支援保育士、所長、主任保育士の同行実施など様々な地域関係機関との連携により、安心安全な保育の実現に繋がっていることを痛感する。それは関係者に対する感謝でしかない。



3. 成果と課題

- ・児童の本所入所を実施することにより、集団生活の中で大勢の子どもたちとさまざまな経験をすることで児童自身の成長発達に繋がり、母親の就労や児童から離れ自由に行動できる時間（心のゆとり）を確保できたことは、「医療的ケア児及びその家族に対する支援」としての大きな成果だと実感する。



・今後の大きな課題としては、2年後の児童の就学を見据え、忍野村アシスト会議を中心とした地域関係機関（特に両親の就学希望である地域校）との連携を密に医療機関・支援学校等の助言や指導をもとに児童の健やかな育ちのサポートに努めていきたいと思う。また児童が本所を卒園するまでは、常に安全安心な保育（医療的ケア）の提供を心がけ、今後も児童及びその家族に対するより良い支援を行っていくため、地域関係機関との連携を一層深めていきたいと考える。

地域のおじいちゃん、おばあちゃんと団子ばら作り体験

1.目的と経緯

- ・地域のお年寄りの方と交流を図り、お年寄りを思いやる気持ちや年長者への尊敬や感謝の気持ちを持つ。
- ・保育所の子どもたちを知ってもらい、地域全体で子どもを見守り育ててもらうなど地域連携に繋げていく
- ・団子ばら作りを通して昔から行われてきた行事の由来を知り、理解を深める。
長年、地域のお年寄りを招いて「ふれあい農園」を開催していたが、コロナ等の影響で、ここ3年程行えていないため、子どもたちとお年寄りの交流が持てる機会として「団子ばら作り」を今年度から行うことにした。

2. 内容

- ・対面式 保護者会、長寿会の会長さんからお話を聞く。(団子ばらの由来等)
- ・お団子作り おばあちゃんたちのお団子作りの様子を見る。ちぎってもらったお団子を一人ひとりもらい、丸める。(2グループに分かれて)玄関ホールの木にみんなと一緒に、団子やみかんを挿して飾る。
お年寄りに肩たたきをしたり、握手をしたり、お礼を言ったり、触れ合いの時間を持つ。
- ・終わりの会

3. 成果と課題

久しぶりの開催でお年寄りも園児もとても嬉しそうに触れ合いを楽しんだ。肩たたきをしたり、握手をしたり、抱っこをしてもらったり、とても良い時間が過ごせたようだ。

これからも地域の方々との交流を持ちながら、今後も保育所に理解を深めてもらえるような活動をしていきたい。



「食」の大切さを知る ～食育～
(行政栄養士との連携)

☆食育指導 ★行政栄養士 三浦さん

1. 目的と経緯

- ・食育指導や親子クッキングを通して「食」に関心を持ち「食」の大切さを知る。
- ・25年前から、行政栄養士と連携し、食に関する教室を行い、現在は年4回の食育指導と年1回の親子クッキング（食生活改善推進員協力）を行っている。



2. 内容

〈今年度の食育指導〉

月 日	対 象	内 容
5月20日(土)	年長児	親子クッキング(食改推) ～キャベツたっぷり餃子～
5月25日(木)	以上児	生活リズム ～早寝早起き朝ご飯～
6月22日(木)	以上児	食事のマナー ～姿勢・持ち方・衛生～
11月29日(水)	未満児	野菜の切り口 ～これな～んだ?～ 好き嫌い ～なんでもたべよう～
3月 7日(木)	年長	食育まとめ ～ぴかぴかの一年生～

*食育指導の様子や内容を掲示や配信し、保護者にも知らせた。

3. 成果と課題

- ◆食育指導後には、給食の際に話題に上がるなど「食」に興味や関心を持つ子が増えた。また、指導の様子や内容を保護者にお知らせすることで、家庭でも話題に上がり、親子で食に関心を持つことができた。
- ◆ここ数年、内容がパターン化しているので、園の畑で子どもたちが収穫した野菜を実際に使って指導を行うなど、興味を引く内容を計画していく。



地域交流・地域連携 『FC ふじざくら山梨との親子サッカー教室』

1. 目的と経緯

日頃、仕事や家事で忙しく頑張っている保護者の方々に親子ふれあいの機会を作ると共に、地域にて活動している女子サッカーチームの選手と地域交流を通して体を動かして楽しんでもらいたいという目的で企画しました。このことで、地域交流と親子交流を一体化した貴重な経験をすることが出来ました。

2. 内容

FC ふじざくら山梨の選手が中心となり、怪我をしないようにストレッチ等の導入から進め、親子で手をつないで1つのボールを蹴ったり、足と足でボールをはさんだりして、ボールとふれあいました。ただ単にサッカー技術を伝授してもらうのではなく、あくまでも親子のふれあいを大切に、親子で身体を動かすことの楽しさを味わえるように選手が考えてくださった内容でした。

3. 成果と課題

地域連携としての親子サッカー教室は、初めての試みであり、参加者全員が楽しめるのか、苦手意識が先立つ保護者がいたらどうしようなどの不安がよぎりました。しかし始めてみると、不安はすぐにどこかへ飛んでいきました。

どの親子の表情を見ても笑顔があふれ、ミニゲームの時には『がんばれ!』とお互いを応援したり、得点をした時には、『やったー!』とハイタッチをして親子で喜んでいく姿がたくさん見られました。

短い時間でしたが、日々の忙しさを忘れ親子で楽しいひと時を過ごしていただけたことは何よりの成果だと感じています。

今回のサッカー教室を通して、保護者の方には『子供の笑顔は本当にかわいい・子育ては楽しい』、園児には『パパ・ママと遊ぶのは楽しい・パパ・ママ大好き』と改めて感じて頂けたら嬉しいです。

今後も地域連携、交流を視野に入れながら、継続して今回のような企画が出来ればと考えています。



本保育所の地域連携・地域交流

富士河口湖町立こもも保育所

散歩をとおして ～地域の人とのふれあい～

1. 目的と経緯

◎毎日のように天候の良い日には散歩に出掛けています。

- ・体力が付き、食欲増進や睡眠の向上や気分転換にもなり体だけでなく心の健康にもつながります。
- ・自然に触れることで、五感が刺激されさまざまなことに興味を持つきっかけとなります。
- ・地域の人に声を掛けてもらうことで地域の人や自分が育った環境に親しみが持てます。

2. 内容

- ・散歩に出掛ける際には、その都度、散歩計画書に人数・順路・持ち物を必ず記入して提出して出掛ける。
- ・観光客に向けて撮影禁止のプレートを散歩車に表示をしたり職員自身にプレートをかけ撮影禁止を呼び掛けたりする。
- ・地域の人にあったら職員が積極的に挨拶をする。

3. 成果と課題

お散歩中に地域の人と「こんにちは」「行ってらっしゃい」「おかえりなさい」「ただいま」など挨拶を交わすことで言葉の獲得にもつながり自然に子どもたちからも挨拶するようになりました。言葉の発達や地域の人々の温かさを感じ、心の発達の向上にもつながったと感じます。

課題としては、観光客の増加に伴い配慮すべきことが多くあります。安全を一番に考えて配慮していきたいと思っております。



団子ばら作り

令和6年1月10日(水)

1. 目的と経緯

昔からこの地域では小正月には山ぼうしの木の枝に団子やみかんなどを飾りつけて五穀豊穡を祈願する家庭が多くありました。保育所でも団子づくりを通してこの風習にふれる機会をつくり、みんなが食べる物の豊作や健康を願いたいと考え、地区の民生委員の方にお願ひし、子どもたちも一緒に参加することができました。

2. 内容

年長組が小立地区の民生委員さんから団子ばらの話を聞き、団子づくりを教えてくださいました。昔ながらの作りかたで、さらに口当たりがよくなるように2種類の粉を使い、子どもたちに分かりやすいように説明しながら、実演してくれました。団子のきじは白・赤・黄・緑色の物を作り、子どもたちも丸めるところから一緒におこない団子づくりを楽しみました。小判に見たて小判形も作ってみました。→**願い事をしながらゆでた団子を木の枝にさして飾りました。**小さめに丸めた白い団子は、調理員さんにみたらし団子にしてもらい美味しくいただきました。



3. 成果と課題

子どもたちは、団子ばらの話を真剣に聞き、食べ物のありがたさも理解できたようでした。団子づくりでは、身を乗り出して粉から団子になっていくところを見ており、食育にも繋がったと思います。団子を丸めている時、「やわらかい～」と感触も楽しんでいました。手作り団子を木の枝にさして嬉しそうでした。降所時にお母さんたちと団子ばらの木を見ながら楽しく会話している姿は微笑ましかったです。

このような伝承行事を、子どもたちに伝えていく人たちが減ってきているのが現状のような気がするので、地域の方々の力添えで、今後も続けていけるとよいと思います。

大石小学校との交流

1. 目的と経緯

大石保育所は大石小学校と隣接しており、日常的に小学生の活動を眺めたり会話をするなど、お互い身近な存在として感じることができる環境にあります。そのような環境ではありますが、保育所と小学校の連携を深め、少しでも入学後の生活がスムーズに行えるようお互いの行事の一部に参加をしています。



2. 内容

*夏まつりに1年生を招待

毎年夏まつりに1年生を招待しています。まず年長児が招待状を作り、小学校へ届けます。当日は1年生と園児と一緒に御神輿を担いだり、音頭を踊ったりしました。地域柄もあり、1年生もほぼ卒園児の為昨年度同様の音頭にすることで1年生も負担なく参加できるようにしています。また最後に園児から1年生にお礼の気持ちと共に土産を渡しました。

*小学校運動会に年長児が参加

今年度は大石小学校の配慮で小さな地域なので就学先に関わらず、地域の子どもとして招待をしてくれました。今度は1年生が招待状を作成し保育所に届けてくれ、当日宝ひろいの種目に参加しました。

3. 成果と課題

散歩の際よく通る小学校のグラウンドではあるものの、入ることのなかった校舎そして教室。招待状を届けることでお邪魔させて頂くができ、お誘いの言葉を言ったり思いがけず一緒に歌を歌ったりできました。また運動会という行事に参加することで、年長児にとっては緊張はしたものの、就学に向けてひとつ不安が消え期待へと変わりました。近いからこそ小学校の先生方とも情報交換がしやすいことは職員にとっても子どもたちにとってもありがたいことです。今後はこの近さを活かし行事に限らず普段の生活の中のわずかな時間を利用しての交流もできたらいいと思います。



本 保 育 所 の 地 域 連 携 ・ 地 域 交 流

富士河口湖町立河口保育所

河口地区公民館まつり

～ 持続可能な社会づくりの場 ～

(地域との連携)

1. 目的と経緯

- 地域やそこに住む人々との交流を通じて人間関係を広げる。
- 地区公民館まつり主催者より参加の手紙をいただく。ステージ発表と展示の同時参加となった。



2. 内 容

- 公民館まつり当日は、年長児が代表で参加した。又、全園児（1才～6才）の作品を出展し小学校体育館に展示していただいた。
- 保育所・小学校・中学校～幅広い世代の多くの団体が参加し、会を盛り上げた。
- 年長児が合奏と体操を披露すると、会場から拍手が響いた。園児達も楽しんで会に参加している姿が伺えた。



3. 成果と課題

- ◇地域の方との交流が図れ、園児たちにとっても良い刺激となった。
- ◇自分たちが住んでいる地域にどのような人がいるのか知ることができたり、社会を知る貴重な機会となった。
- ◇感染症予防に努めているが、感染状況によっては参加方法の工夫が必要である。

「やぶさめ祭り」への参加

1. 目的と経緯

「甲斐の勝山やぶさめ祭り」は、戦国武士の勇壮な伝統を今に伝える、古式ゆかしい祭りで、900年以上の伝統がある。「武田流やぶさめ」を県内外に紹介し、真のふるさとづくりを目的とし住民参加で実施するふるさと祭りである。コロナの為、中止が続き4年ぶりの開催となった。その中で、勝山保育所の年長児は、「勝山子どもやぶさめ太鼓」を披露した。

2. 内容

- ・甲斐の勝山実行委員会により運営され、芸能の部で披露する。
- ・年中児1月より太鼓の練習を始め、年長児進級後の4月29日が初舞台となる。
- ・はっぴを着て舞台上がり、和太鼓を地域の方々や観光の為に来た方々の前でたたく。

3. 成果と課題

- ・地域の方々の優しい笑顔と励ましを受け、緊張しながらも一生懸命たたき、演奏後には大きな拍手をもらった。それは子ども達の大きな自信と喜びにつながった。
- ・礼儀、物を大切にする心など、昔から受け継がれて来ている伝統を教えてもらえるこの環境を大切にしていきたい。



世代間交流『農園活動』をとおして

～老人クラブの方々と共に～

1. 目的と経緯

- ・地域の老人クラブの方々と種芋まきから収穫までの農園活動を通して世代間交流を行う。
- ・自分たちで栽培収穫をした野菜を給食に取り入れて食べることにより食に関する意識を高める。
- ・この活動は30年近く続いていて、地域の老人クラブの方々と子どもたちが農園活動をするにより身近な存在となりいろんなことを学び楽しく会話しながら栽培収穫を体験する。

2. 内容

- (春)・老人クラブの方々に畑の整地(耕作)をしていただき、肥料も一緒に与え、種芋を置く場所や土をかける作業等を指導してもらい何の為にこれらの作業をするのかの話を聞く。
- (夏)・老人クラブの方々と芋掘りをする。真夏の暑い中の作業であったが子どもたちもじゃがいもがどのようにして生長したのかを教してもらいながら作業をする。

3. 成果と課題

- ・収穫した芋は早速給食の材料となり、家にも持ち帰ったことにより家庭でも芋掘りの話題で盛り上がったようである。
- ・土に触れることや栽培・収穫することの大変さや楽しさを体験することで興味を持つことができ、苦手な野菜にも挑戦できるようになった。また老人クラブの方々の収穫までのご協力に感謝する気持ちを持つことができた。これからも地域のつながりを深める大切な行事として続けていきたい。



地域交流ができる運動会

1. 目的と経緯

- ・ 本保育所は小規模保育所で現在も7名(以上児6名未満児1名)の異年齢児保育をしている保育所の為、単独で運動会を開催することができず、例年富士豊茂小学校の運動会に参加させて頂いている。
- ・ 小学校だけではなく地域の方々も参加して交流を深めている。
- ・ 本保育所の存在や園児たちを知り、理解を深めてもらい地域全体で子どもたちを見守って頂ける機会とする。
- ・ 地域の人たちに子どもたちを見てもらうことにより園児の活動意欲や励みとなって今後の自信につなげていく。

2. 内容

- ・ 運動会準備には小学校の先生方をはじめ保育所保護者会ほか、小学校PTA、消防団、育成会、中学生の手伝いもお借りしながら進めていく。
- ・ 種目においても保育所では異年齢児保育のため基準をどこに合わせればよいのか難しさはあるものの、少人数でも楽しく無理なく参加する内容を入れさせてもらい発表する。
- ・ 保育所以外にも地区の団体が参加しての種目もあり、運動会を構成する。

3. 成果と課題

- ・ 演技、競技を披露することで自信へとつながり、保育所の活動や園児のことを地域の方々に知ってもらえることができた。
- ・ 保育所の種目だけではなく、地域の種目にも参加させていただき連携を深め、小学生の姿を見て憧れの気持ちを抱き、学べることができ良かった。
- ・ 今年度も、いろんな行事は足和田保育所との合同で行うことが多かったが、地域で行える活動に参加させて頂けて良かった。これからも継続して参加していきたい。

